

もない。然も、今 Dykmans の著作を見るにこの方面の考慮が相當拂はれて居ると思はれる。第三卷の末尾に埃及用語表を備へて居り、これには埃及學の專攻者 J. Pirame が關與せるものである。依りて、この種の著作が單に古王國のみに限らず、古代埃及全體に互りて發表せられるを望む次第である。(岡島誠太郎)

Beer, M.: Early British Economics.

—from the XIIIth to the middle of the XVIIIth century.—

Contents. I. The Schoolmen and their Problems. II. Alexander of Hales (Alensis). III. Ricardus de Media Villa. IV. John Duns Scotus. V. The Legacy of the Schoolmen. VI. The Age of Mercantilism: General View. VII. Sixteenth Century Economics. VIII. Balance of Trade. IX. Importance of Manufacture. X. Recapitulation. XI. Transition to Liberal Economics. XII. Retrospect: British Economics in 1750. Index.

十三世紀から十八世紀半に至る數世紀間に於て英國の社會發展に伴ひ引起された經濟的・倫理的諸問題を概觀し、之等諸問題に對して當時代の學者・貿易商人・經濟記者・哲學者に依つて發表せられた諸學說を系統的・組織的に考察せんとするのが本書の目的である。

而して Beer の努力は先づ、後者即ち英國に於ける初期經濟學

說の發展過程を有機的に體系付ける事に向けられてゐる。こゝに於て著者は、各章を時代順に排列し、次で各時代の經濟學說・經濟理論を分類し、最後に、かく分類された各時代の指導的經濟學說を歴史的に位置付けると共に、又各時代の經濟觀念の占むる歴史的位置をも鮮明ならしめんとする物である。

十二・三世紀の英國思想界を指導した Græco-Roman logic and dialectic はフランスに學んだ John of Salisbury 等に依つて大陸からもたらされた物であるが、このスコラ主義思想に本づいた嚴格な倫理觀念と、之に對立して當時伸長の第一歩を踏み出した英國通商事業の經濟的事實との間に存在する矛盾解決は其後數世紀間に互る英國言論界の中心問題であつた。(而して英國の通商界が部落・都市中心の初期形態を脱して國際化されると共に、即、英國の海上支配の必要性が認知され來ると共に、この問題は政府の經濟政策と相關聯して、重商主義經濟學說の實踐的應用に迄展開して行つた。六十頁以下の三章)

やつこの doctrine と facts との對立の間に立つて兩者の衝突を緩和し、英國經濟界の發展を圓滑ならしめんとした諸スコラ學者第二・三・四・五章)は新舊南聖書 Ambrose, Augustine, Chrysostom, Cassiodorus の如き教父、及 Isidor, Peter Lombard の如き諸權威の勞作から出發して重商主義經濟理論の確立に至る迄、斷えずの努力を續け、英國に於ける經驗說の基を開いたのである(二四頁)。彼等スコラ哲學者の間に成立した共通理念は、その理論的根據に

於ては夫々特異性を有するとは云へ(五三頁)次の一句に要約し得ると思ふ。

Exchanges must be on the basis of equal values, and sales at "just prices", (一九頁)

そして、この理念に論理的根底を與ふるに至つたと考へられるアリストテレスの貨幣論(三二頁)と通商論(一三〇頁)に Beer の關心が寄せられてゐる事は Medieval and Modern Conception of Trading との關聯に迄考察を進むるに及び意義深く感ぜらるゝのである。

次で第三章三十餘頁に於て Alexander of Hales (一二四五年、パリに死す) Ricardus de Media Villa (一二四九年生) John Duns Scotus (一二六五年生れ、一三〇八年死す) William of Occam (一二三四年頃死す)を取り上げ、彼等の抱く倫理觀・經濟觀の紹介が見られる。即財産の私有、貨錢の取得、通商に於ける營利活動を ius naturale と結付けるべく、 necessity, goodness, equity を考慮した Hales (二七頁) Equal liberty for all, useful to ordered social life (五三頁)を主張した Ricardus, Scotus, divine Law と human Law との勵めを考察し Roman Church を否認し、national sovereignty, individual conscience を承認した Occam。以上四人の解明は equality of exchange から balance of trade への經濟理論發展の過程を認識すると共に(一三〇頁以降)經濟的危機 (Price Revolution, 金銀の海外流出増加による)を克服した英國の經濟界が中世的諸束縛を脱して、近世的條件を獲得するに及び

(一二七頁以降) F. Bacon (一三八頁) W. Petty, J. Locke (一五五頁)等による重商主義經濟學說の展開、更に英國産業革命の華々しき成果(一五八頁以降)をもたらし dynamic な作因の依つて來る處のものを把握するに缺く可からざる基礎的勞作である。

(Printed in Great Britain, by Darwin Brothers Ltd. in 1938, 80. p.p. 250. £ 7.65) (小澤吉見)

國境政治地理

岩 田 孝 三 著

國境は政治地理に於ける一つのテーマとして既にラッツェル以來取扱はれて來た。しかし從來は軍人・政治家等實際家により、より多く問題とせられたのであるが、植民地の分割殊に世界大戰の結果新國境の劃定さるゝもの多きを見るに至り、地理學者による體系的研究が行はれて來た。ハウスホーフエルの「地理的政治的意味に於ける境界」、マウルの「政治境界」は即ちその認められたもので、フォーセットの「境界地理」、ホールデッチの「政治的境界」と國境劃定」等の實際的研究と共に國境政治地理の主要文獻である。

昭和に入つてから我が地理學界にも獨逸の政治地理學書が多數翻譯紹介されたが今や滿洲に於けるソ聯との境界紛爭、支那事變の收拾に直面して政治地理殊に國境に關する智識は朝野喫緊の要求となつた。

この時に當り、政治地理を専攻され職を陸軍經理學校に奉ぜら